

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年2月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2278200106		
法人名	社会福祉法人 三幸会		
事業所名	グループホームやまざき		
所在地 (電話番号)	浜松市西区雄踏町山崎2829番地		(電話) 053-597-2586
評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成20年10月30日		

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤	7 人、非常勤 0 人、常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 / <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 / <input type="radio"/> 改築
建物構造	S造「鉄骨・剛構造」造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有() 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 / <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり 1,380 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82 歳	最低	60 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	正田医院 野寺歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは系列の特別養護老人ホームなど5つの施設と同じ敷地内にあり、自然環境にも恵まれている。管理者や職員は、利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、趣味活動やレクリエーションを通じて利用者の要望に対応している。外出は遠出の年間計画を作り、外食や季節ごとの自然を楽しんだり、またデイサービスの送迎車に同乗してドライブを楽しんだりしている。食事は、利用者職員と一緒に作り、月2回のお楽しみ昼食会も実施されている。家族の訪問も多く、訪問時に連絡や情報交換がされ、ホームからも毎月、行事予定や利用者一人ひとりの様子を書いたお便りを送るなど、家庭との連携を大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果の課題を、管理者・職員で話し合い、介護計画の見直しや食事、避難訓練などは改善に向けて取り組んでいる。地域や行政との関わりの項目は、今後も継続して働きかけていくことを職員間で確認している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員一人ひとりが自己評価表を記入し、ケアの振り返りや見直しの機会とした。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は前回平成20年2月に開催し、19年度の事業報告や外部評価報告を行ったが、今年度はまだ実施できていない。早急に開催すべく、家族や地域住民の代表者の参加要請を模索中である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問の機会も多く、訪問時に意見や要望等を伺っている。家族会を開催したり、アンケートを実施し、意見や要望の把握に努め、出された要望はできる限りすぐに実施し、また改善に取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	広い敷地内に法人施設が隣接して建っており、地域との交流、連携が取りにくくなっている。利用者たちが散歩に出た時には挨拶を交わしたり、地域のお祭りなどには出かけていくが、地域住民の一員として地域活動に参加する機会はまだまだ少ない。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成13年の開設当初から、理念の一つとして「グループホームを地域に開かれたものと致します」という項目があり、地域密着型サービスの役割を目指し実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつも目に入るように事務所や玄関に掲示し、何か問題があった時には職員会議で確認し合い、理念に基づいて考え直している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	祭りや敬老会など地域の行事に参加したり、併設施設の納涼祭に地域住民を招いたりしている。また小中学校の福祉体験の受け入れや幼稚園児との交流を行ったり、散歩の折には地域の方と積極的に挨拶を交わすようにし、野菜や花の差し入れなどもある。自治会にも加入するなど、様々な場面を捉え交流に努めている。	○	地域住民との交流を図るため、廃品回収や地域の清掃などにも参加している。これからも地域活動の情報を集め、働きかけを続けて、地域の人々と支えあう双方向関係の構築に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解し、前回の評価結果を職員会議で話し合い、モニタリング票の導入の検討、月2回のお楽しみ昼食会の実施、避難訓練への利用者の参加など改善に結び付けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年2月に実施し、19年度の事業報告や外部評価報告、意見交換を行った。今年度開催予定はあったが地域代表の参加の賛同が得られず、まだ開催できていない。	○	地域と離れた場所に法人施設がまとまって建っているため、グループホーム独自で地域と関わる難しさがあるが、運営推進会議の開催により、地域密着型サービス事業所としてのサービスの質の向上につなげられたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人として、担当者が行政と連絡を取り、相談や報告をしているが、グループホームが独自に行政と連絡を取る機会は少ない。行政主催の認知症の研修会には参加している。	○	地域密着型サービスならではの課題解決のために、行政との連携は不可欠なので、実情や課題を理解してもらえよう関係作りにも取り組まれない。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の日頃の様子を伝えるとともに、毎月、担当職員が利用者一人ひとりの様子や健康状態を書面にして各家族に送っている。またホーム便りを作成し、ホームでの暮らしぶりや行事予定、職員の異動などを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に声を掛けたり、ホーム主催で家族会を開催した際に、意見や要望、苦情を伺っている。出された要望などは、職員会議で話し合い、ケアに反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ異動は少なくしているが、異動の際は職員間で引き継ぎをしっかりと行い、利用者からいつものやり方を教えてもらうなど利用者が受け入れやすいよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が研修内容を見て、職員それぞれに合った研修に参加できるよう計画している。年間で研修参加の機会は多く、研修を受けた職員は伝達研修を行い、ケアに反映している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会やケアマネ連絡会の研修会などに参加し、同業者と交流したり、他のグループホームに依頼し、職員が見学する機会を設けるなど、交流を通じてサービスの質の向上を目指している。	○	他のグループホームに働きかける積極的な取り組みができています。今度は、相互訪問の活動に発展することを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの雰囲気を知ってもらうために、見学や体験の機会を作り、職員と自然に接しながら、徐々に慣れてきた上で利用開始ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方を教えてもらったり、特に新人職員は様々な場面で段取りを教えてもらうことが多く、生活の中で喜怒哀楽を共にしながら、支えあう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前の聞き取り調査や、利用後は一緒に過ごす日々の会話や行動の中から、本人の意向の把握に努めている。その情報はパソコンに記録し、職員全員が共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、利用者の様子等について担当者から意見を出し、家族からの要望を加えて全員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	前回評価結果で、新たな要望や変化の無い利用者の計画が長期間見直しが行われていなかった点について改善され、6ヶ月を基本に見直しが行われている。家族の意見や要望等を話し合い、現状に即した計画が作成されている。	○	介護計画の評価の部分で記録が不十分であるが、現在新しい様式を準備中であり、より利用者主体の暮らしを反映した介護計画の作成が期待できる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス利用者の送迎に同行し、ドライブしながら買い物をするなど要望に応じて外出の支援を行っている。	○	個々の利用者や家族、また地域住民のニーズに応じて、その暮らしの安心へつなげるサービスの提案も検討されたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診に来てくれたり、いつでも対応してくれる協力医が確保されていて家族の安心に繋がっている。かかりつけ医の往診もあり、協力関係ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応方針として、事業所が元気な方を対象に設備設計されており、一般浴槽で入浴できない状態の方は「見合った所で見合った介護を受けられるのが本人のため」と利用開始時に家族に説明・了承されている。終末期ケアは考えていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室内にトイレが設けられていて、プライバシーのある排泄が確保されている。個人情報のファイルや個人名が特定できる予定掲示板等は人目に付きにくいところに保管・掲示されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共有空間での過ごし方も、調理する人、パズルやぬり絵を楽しむ人など、ゆったりとした時間の中で一人ひとりのペースが大事にされ、希望に添った支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	前回評価結果を受けて、利用者・職員全員が同じテーブルと一緒に食事することで、さらに食事が楽しみなものになるよう改善されている。食事作りや準備、片付けも一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間のアンケート調査を行った結果、従来通りの希望が多く、午後の時間を設定している。入浴回数は希望に添って支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りには、買い物や片付けまで、全員が何らかの形で参加している。洗濯物干しや取り込み、掃除、畑の水まき・収穫等利用者の得意なこと、できることを活かして役割分担し、喜びや張り合いを持って生活できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩に加え、食材料の買い物に出かけたり、デイサービス送迎時に同行しドライブするなど、その日の希望に沿った外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけていないが、利用者の状態を見極め、施錠による対応も行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を毎月実施し、ヘルメット等防災用具は玄関に備えている。年2回、系列の特別養護老人ホームと一緒に、防災訓練も行っている。	○	地域で行う防災訓練に参加したり、運営推進会議等で、同法人が行う防災訓練に地域住民の参加を呼び掛けたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は法人グループの管理栄養士により、バランスの取れた献立が作られている。食事・水分の摂取量をチェックし、記録により職員間で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の天窓や廊下から自然の光を取り入れ、心地よい空間となっている。畳やソファを随所に配置し、壁面には利用者の作品や写真、花などを飾り、居心地良い空間作りを工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームでベッドと机・電話を設置している。それ以外は本人が使い慣れた家具やお位牌などが持ち込まれている。家族の写真や、ホームでの作品等もきれいに飾られ、その人らしい居室作りを支援している。		